

## 不知火専用ハサミ使用による温州の腐敗軽減

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部  
担当者：山田 一字

### 研究のねらい

果梗枝の長い果実は、選果作業時の衝撃により果実が互いに傷つき、薬剤を散布しても緑かび病の発生が多くなる。このため、収穫時に、一般に使用されている収穫ハサミより刃先が湾曲した不知火専用収穫ハサミを使用することで、果梗枝の長い果実の発生を防止できる。

### 研究の成果

- 1．チオファネートメチル剤に対する緑かび病耐性菌の発生が低くても、収穫前に薬剤を散布し、収穫後に家庭用小型選果機で選果すると緑かび病の発生が多くなる(表 1、表 2)。
- 2．極早生・早生温州では、収穫後の果実を家庭用小型選果機で選果すると、アスファルト坂を 5 m 転がして負傷させた果実やそのまま貯蔵した果実に比べ、収穫 18 日後には緑かび病による腐敗が 12.0%と多くなる(表 3)。
- 3．果梗枝の長さが 1mm 以下の果実は、収穫 21 日後でも家庭用小型選果機使用の有無にかかわらず腐敗の発生が少ない。しかし、果梗枝の長さが 2 ~ 3mm の場合、無使用区では 0.8%と少ないが、使用区では、緑かび病による腐敗が 7.3%と多くなる(表 4)。
- 4．果梗部の凹みの大きい品種ほど収穫時に果梗枝の長い果実の発生が多い傾向にある(表 5)。
- 5．一般の収穫ハサミより刃の角度が湾曲した不知火用収穫ハサミを使用すると、果梗枝の長い果実の発生が少なくなり、一定時間内の収穫個数も変わらない(図 1)。

### 普及上の留意点

- 1．カンキツ緑かび病の耕種的防除技術として活用できる。
- 2．カンキツの果実腐敗は、薬剤のみに頼らず、耕種的防除技術を組み合わせた総合的な腐敗防止に努める。

表1 緑かび病に対する各種薬剤の防除効果(豊福早生・収穫18日後)

供試薬剤	濃度	無 傷		有傷(選果機利用)		
		調査果数	腐敗果数(%)	調査果数	腐敗果数(%)	
チオファネートメチル	2,000	102	0 (0.0%)	100	2 (2.0%)	
イミノクタジン	2,000	100	1 (1.0%)	100	8 (8.0%)	
混	チオファネートメチル	2,000	105	1 (1.0%)	103	3 (2.9%)
	イミノクタジン	2,000				
無散布	-	102	1 (1.0%)	100	12 (12.0%)	

表2 緑かび病耐性菌の発生状況(平成13年10月)

検 定 菌株数	(チオファネートメチル)				
	< 1	1	10	100	1,000ppm
39	15	4	17	2	1
率(%)	38.5%	10.3%	43.6%	5.1%	2.6%

表3 負傷の違いによる緑かび病の発生

区分	調査果数	腐敗果数(%)
小型選果機	100	12 (12.0%)
アスファルト坂(5m)	95	1 (1.1%)
無傷	102	0 (0.0%)

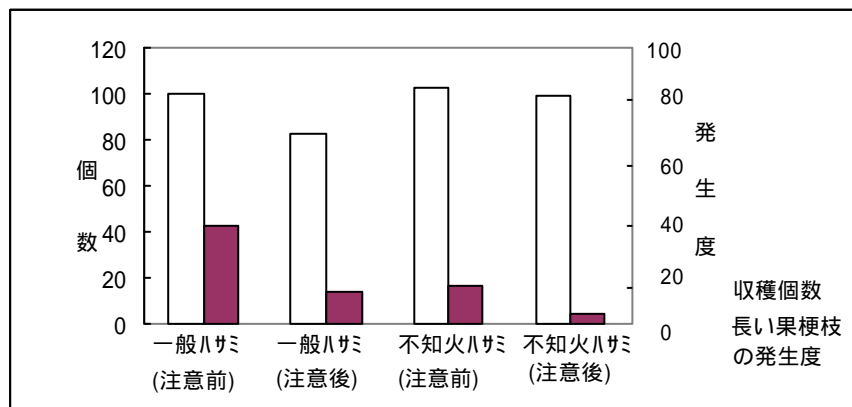
表4 果梗枝の長さとの緑かび病の発生

果梗枝の長さ	選果機の使用	調査果数	腐敗果数(%)
< 1 mm	使用	115	0 (0.0%)
< 1 mm	未使用	124	1 (0.8%)
2~3mm	使用	110	8 (7.3%)
2~3mm	未使用	118	0 (0.0%)

表5 果形のの違いと長い果梗枝発生との関係

果梗部の形	調査果数	果梗枝の長さ	
		3mm以下	3mm以上
凹部大の果実	177	89(50.3%)	88(49.7%)
凹部小の果実	208	169(81.3%)	39(18.7%)

図1 収穫ハサミの違いによる長い果梗枝の発生と収穫能率に及ぼす影響(収穫時間5分)



調査基準

果梗枝の長さ：無(0)：1mm以下、軽(1)：1~2mm、中(3)：2mm以上

長い果梗枝の発生度  $\frac{(軽 \times 1) + (中 \times 3)}{調査果数 \times 3} \times 100$

注意：収穫時に果梗枝を短く切るよう注意